



広大な夏のワイン葡萄畑(東御市・祢津御堂)

東御 小県 保護だより

第6号

発行 東御・小県地区
保護司会
責任者 渡邊 芳宏
題字 小川 純夫

保護司の方々の業務内容を充分理解していなかったので、法務省のホームページを見ました。「保護司とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアです」とありました。この「立ち直り」という言葉で思い出すことがあります。

私は、38年間小中学校で多くの子どもたちと関わってきました。特に中学校で9クラス学級担任をしたことが教員生活の宝物です。自分の思いや気持ちをうまく表現できず、学校で暴れたり先生に反抗したりする生徒たちがいました。上司や同僚と相談しながら、生徒から話を聞いた、生活ノート(生徒が提出する日記のようなもの)に書かれた文章から生徒の思いをくみ取り、私の思いなどを書いたりして何とか寄り添おうとしてきました。

A君は、友達思いで気持ちの優しい少年でしたが、何をするにも「どうせオレなんか」が口癖でした。学年が上がっていくにつれて、生活が乱れていきました。欠席はなかったのですが、勉強にも部活動にも意欲がなくなっていました。話を聞いてもなかなか口を開かず、心配をしていました。それでも生活ノートの



一人一人の「立ち直り」を信じて
東御市教育長 山口 千春

提出はあり、私の思いや級友や部活の友達の声を書き続けました。

3年生になって、進路に向けて自分と向き合う時期となりました。部活動での頑張り(県大会出場)もあって自信をもてたのか、徐々に「立ち直り」を見せてきました。そして、勉強も頑張り、第一希望の高校に見事合格しました。

卒業式が終わった後、A君は母親と私のところに来て、「先生、いろいろ迷惑かけたけど、先生の生活ノートの言葉忘れないよ。先生は、オレが何をしても、信じていてくれたんだよね」と言葉少なめに言ったのです。斜め後ろに立っていた母親が目頭を押さえていたが、大変印象的でした。

近くに思いや悩みをまず無条件で受け止めてくれる、信頼できる大人が一人でもいること、そして、その人との面談や対話等を繰り返していくことで、「人生捨てたもんじゃない」「この人なら自分をわかってくれる」「立ち直れるかもしれない」という前向きな思いが、時間はかかるかもしれませんが、醸成されていくのではないかと感じました。

新会長挨拶



東御・小県地区
保護司会
会長 渡邊 芳宏

東御・小県地区の皆様には日頃より保護司会の活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。本年5月の総会において東御・小県地区保護司会会長をお引き受けしました。力不足ではありますが保護司の皆様のお力をお借りし微力ながら地域貢献ができるような活動をして行きたいと思っています。私が保護司を拝命したのは平成19年。当時は「更生保護活動」が主な活動でありました。しかし近年長野県はもとより全国的に「犯罪は減少傾向」との事です。それによって保護司も「社会を明るくする運動」と題して「犯罪や非行のない安全で安心な地域づくり」を目指しての活動をしています。関係団体の皆様とも連携し「地域とともに歩み地域に貢献する更生保護」の実現に向け努力する所存です。ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

お疲れさまでした

退任にあたって

前東御・小県地区保護司会 会長
(東御市) 田中 透

本年5月を以て、75才定年により保護司会長及び保護司を退任いたしました。

保護司として16年間、多くの皆様にご指導、ご協力を頂き心より御礼申し上げます。

地域の皆様には、今後とも更生保護活動にご理解ご協力をお願い申し上げますとともに、保護司会の皆様の益々のご活躍を祈念申し上げます。退任の挨拶といたします。

〔退任者の皆さん〕

令和6年11月退任 (東御市) 阿部貴代枝

令和7年5月退任 (東御市) 細田あや子

令和7年5月退任 (東御市) 山越 淳一

(敬称略)

よろしくお願いいたします

新任保護司の挨拶

(東御市) 高藤 博幸

昨年11月の委嘱から半年余り、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える保護司の重要性を改めて感じています。

研修や先輩保護司から学んだことを活かして、少しでも更生保護に貢献できればと思います。

令和7年度

東御・小県地区保護司会役員

会 長	渡邊 芳宏(東御市)
副会長兼会計	宮澤 清治(長和町)
副会長兼サポートセンター長	清水八重子(東御市)
理 事	宮原 満(青木村)
	小林 和夫(長和町)
	高木 和浩(東御市)
監 事	丸山 宏子(長和町)
	田中 信寿(東御市)

祝 おめでとございます

第38回関東地方更生保護大会・長野県更生保護大会において、更生保護活動の多年に渡る功績によりお2人の方が法務大臣表彰を受けられました。

(令和6年10月25日)

法務大臣表彰 細田 あや子(東御市)

小林 悦子(長和町)

(敬称略)

令和6年度の主な事業

5月22日	総 会(東御市)
〃	第1期研修会(東御市)
7月1日	社会を明るくする運動 街頭広報活動(田中・滋野駅前)
8月27日	第2期研修会(青木村)
9月21・22日	社会を明るくする運動 ぬり絵大会 (東御市・巨峰の王国まつり)
10月25日	第69回長野県更生保護大会
11月19日	第3期研修会(長和町)

令和7年度の主な事業予定

5月15日	総 会(東御市)
〃	第1期研修会(東御市)
7月1日	社会を明るくする運動 街頭広報活動(田中・滋野駅前)
8月26日	第2期研修会(青木村)
9月	社会を明るくする運動
10月24日	第70回長野県更生保護大会
11月11日	第3期研修会(長和町)

社会を明るくする運動

東御市・巨峰の王国まつりでぬり絵大会開催!

昨年9月21日・22日、東御市中央公園で行われた巨峰の王国まつりで、「社会を明るくする運動・ぬり絵大会」を開催しました。

更生保護の歴史や保護司の役割などを知っていただくため、更生保護活動を紹介するパネルも展示しました。



会場に訪れた多くの子ども達に、更生保護キャラクター「ほごちゃん」などのぬり絵を楽しんでもらいました。

短信欄

東御市・長和町・青木村の更生保護活動や市町村の話題

東御市

東御市保護司会では、今回、東京高等裁判所と警視庁を視察しました。

初めての裁判傍聴に緊張しましたが、館内に入りその日の事件一覧表を見たとき、日々こんなに多くの司法の裁きが行われていることに驚きました。原則自由に傍聴ができるので時間が限られた中3つ傍聴できました。

警視庁も初めて、既定のルートではありませんでしたが、過去の重大事件の証拠品などと合わせ、今日までの警視庁の変遷を知る良い機会となりました。



警視庁見学記念
令和7年1月15日

長和町

「社会を明るくする運動」の一環として福祉協力会（民生児童委員・行政相談員・人権擁護委員・福祉行政職員・保護司）の研修会が開催されました。

講師に一般社団法人長野ダルク竹内代表らをお招きし、薬物依存の恐ろしさについて、ご自身の体験談と共にご講演いただきました。

「薬物依存は完治しない病気。今日だけ覚せい剤をやめる。それを毎日続けていく。」
静かな語り口、心に響きました。



長和町福祉協力会

青木村

青木村の先人、五島（小林）慶太は、東急グループの礎を築き、また教育者として次世代の人材育成に力を注ぎました。

若くして故郷を離れ、多岐に渡って活躍する一方、生涯を通じて「ふるさと・信州」との関わりを持ち続けた人でした。その偉大な軌跡を振り返り、偉業をたたえると共に、若人等に「小さな山村からでも、世界に羽ばたく大志を持つ」と、「五島慶太未来創造館」を開設しました。是非ご来館を！



東御・小県地区

更生保護女性会の活動

本年の東御・小県地区更生保護女性会の会員数は109名です。

それぞれの市町村の主な活動は、長和町では、明治22年にかつて22歳の若さで窃盗犯の護送中に格闘の末、壮絶な死を遂げて殉職された警察官の慰霊碑周辺の清掃活動。夏休みなどに、ふれあい子ども館の児童の見守り、裾花寮訪問など多くの活動を実施しています。

青木村では、保護司の皆さんと交流し意見交換、休み中の児童センターでの学習ボランティアなどを実施しています。

東御市では、総会時の研修会と11月の秋季研修会として、子どもに関する講演会、2月に2回に分かれて女性が収容される栃木刑務所の視察研修、そして、5地区それぞれで子育て支援活動などを実施しています。

また、6年度は日本更生保護女性連盟から東御・小県地区が「地域との連携・協働活動推進地区」に選定されており、一年間の活動をそれぞれまとめ冊子にしました。

東御・小県地区更生保護女性会の活動が、更に輝くものになるよう願っております。

東御・小県更生保護女性会

阿部貴代枝



栃木刑務所入口にて

更生保護女性会だより

第74回

東御・小県地区から4名が入賞・入選！
社会を明るくする運動

長野県作文コンテスト

入賞・入選者の皆さん

【優秀賞 長野県BBS連盟会長賞】

東御市立東部中学校1年 堀内 夏葉さん

【入選】

東御市立田中小学校6年 鮫島 早穂さん

【入選】

東御市立津小学校6年 桜井 美陽さん

【入選】

東御市立和小学校6年 竜野 莉緒さん

※令和6年度当時の学年です。

堀内夏葉さんの優秀賞作品

「心のガラスがわれる前に」

非行や犯罪を犯してしまうきっかけは身近にある。そして、それは誰でもおかしってしまう可能性があり、きっかけは様々だ。どうすればそのきっかけをなくし、非行や犯罪をくい止めることができるのだろうか。

六年生の頃、私は楽しくて明るいクラスの一人だった。そのクラスに、いつも笑顔で人付き合いの上手な一人の友人がいた。しかしある日、急に元気がなくなり、友達とも話さなくなってしまった。

数日後、私は心配になり友人に声をかけた。

「どうしたの。相談にのるよ。」

友人は安心したような顔をした。

「ありがとう。」

そして言った。

「私って誰にも必要とされてないよね。」

「え？」

「みんな仲良くしてくれて嬉しいよ。でも、私を頼ってくれる人がいないんだ。」

そう言った友人はすごく辛そうで、私の心がずきりと痛んだ。

「それに、最近よく陰口を言われたり、からかわれて嫌なんだ。だからもう友達と話したくない。本当はもつと頼りたいのに。」

それを聞いた時、『どうして私は友人が悲しんでいることに気づかなかつたんだろう』と思った。しかし、私は、友人を励ますことも、支えることもできずに黙ってしまった。

それから数日、友人はいつもと正反對の行動をとるようになり、まるで別人だった。人の悪口を言ったり、人をたたいたり、仲間外れにしたり……。私はその光景を見ているだけでも苦しかった。

そんな友人は私に言った。

「あんた、嫌い。」

え？

「なんで私は誰にも頼られていないのに、あんただけ友達にも先生にも頼られているの!? そんなのずるいよ!」

頭が真っ白になった。友人はその日から私に話しかけなくなり、私もショックを受け、話ができなかった。しかし、日が経つにつれて私は「このままで良いのだろうか。」と思うようになった。

そして、友人が他の人にも強く当たっているところを見て、私は思った。

『やっぱりこのままではいけない。』

私は思い切って友人に声をかけた。

「この前私に言ったこと、もう一度よく考えて。〇〇ちゃんは頼られていないなんて、私は思わないよ。」

私は思っていることを全力で伝えた。「それに『頼られたい』と思っているのに人を傷つけて、自分の思いとは正反對のことをしている気がするよ。もつと周りの人を頼れば、きっとその人も頼ってくれるはず。」

「……そっか。そうだね。」

友人は前のような笑顔で言った。

それから友人は人に悪口を言ったり、たたいたりすることがなくなつた。そして、前のようにみんなとたくさん話すようになった。

「大事なことを教えてくれて、ありがとう。」

友人は涙ぐんで、嬉しそうに私に言った。

心は「ガラス」のようだ。少しのことでひびが入り、大きな音をたてて割れてしまうことがある。そして、心に受けた傷は様々で、それが原因となり、私の友人のようにまちがった行動をしてしまう人も多い。犯罪はこの様々な小さな傷が重なり、心が割れてしまうことでおきる。そのため、心の小さな傷が犯罪のきっかけになるのだ。そして、割れた心から逃れようと、自分の思いとは正反對の行動、犯罪に手を染めてしまふのかもしれない。つまり、「犯罪」はしてはいけない、したくないと思っても、自分を守るためにしないといけないものになってしまうのだ。では心のガラスが割れる前に心の傷を治すにはどうすれば良いのだろうか。それは、

アしながら生活していくことができると思う。また、孤独になり「どうでもいい」という理由で犯罪をおかしてしまふこともないはずだ。

そして、傷ついた心を治すには、「寄りそい」が何よりも大切だ。辛い時、苦しい時に、誰かがそばにいるだけでもその人にとって大きな力になるかもしれない。そして、その人と一緒に心の傷と向き合い、治していくことで心が割れるのを防ぐことができると思う。

私はこれから、「信頼」と「寄りそい」の関係を大切に、周りの人の心のガラスが割れてしまう前にその傷を治していきたい。そして、誰かが犯罪に手を伸ばそうとした時には、「だめだよ。」とその手を止めてあげられる人になりたい。一人でも多くの人の「明日」を「明るい日」にするために。



更生保護マスコット
キャラクター・ホゴちゃん

東御小県保護司会

サポートセンターのご案内

場所 東御市総合福祉センター内

電話 0268(71)0244

時間 月曜日・水曜日

午前9時から正午まで

※更生保護に関するご相談をお受けしております。お気軽にご来所ください。

事務局

渡邊恵美子・堀口 海

(事務局・東御市福祉課内)